

多摩グリーン賞

エムケーが最高賞

調整区域
開発に高評価

東京都の多摩地域の企業や自治体などで構成する多摩ブルー・グリーン倶楽部（臼井努代表）は17日、多摩グリーン賞（経営部門）表彰で最高賞を受賞した、物流

施設などの不動産開発・販売を手掛けるエム・ケー（小林勲社長、日野市）を訪問し、小林社長らが同社の強みや企業理念を説明した。

エム・ケーは、地域活性化に向けた大規模市街化調整区域の開発が高く評価された。リスクが高く、大手ディベロッパーも二の足を

踏む調整区域の開発。従業員36人、「小さな大企業」を掲げ、2014年1月期の売上高は95億6200万円だった。

小林氏は「無から有を生み出し、より高い付加価値を提供することが我々の仕事。利益率を上げるため、少数精鋭で事業運営している。一年間の集大成として毎年1月7日に社員に公開している経営指標データは、大手不動産会社を上回っており、社員の満足感につながっている。社会貢献も一層図っていききたい」と



「知名度の向上が課題と認識している」と小林社長

強調。
岩館道廣専務は、埼玉県久喜市と共同で進めた産業

団地・ネクストコア清久の事例を挙げて事業手法を紹介。市街化調整区域は「開発成功率が12・5%と考えており、当社では地権者の同意や許認可、入居を希望する企業の本気度などを勘案して70%の成功率が認められれば着手する。これまで許認可の関係で1件だけボツになったが、成功率は98%に上っていると説明。

更に、「開発で行政の税収は増え、企業経営はより効率的になり、地権者は土地を有効活用できる。市町村の開発計画が農地転用制度に阻まれるケースが多く、地域活性化のためにも制度改革は急務だ」と述べた。

エム・ケーは、小林氏が1988年に創業。特に、ネクストコア清久の成功が注目を集め、青森県から沖縄県まで多くの自治体から相談が寄せられている。

（高橋朋宏）